

特別講演 1

「橋本病に伴う神経疾患」

福井大学医学部内科学（2）准教授

米田 誠 先生

甲状腺疾患、とりわけ橋本病は潜在性の患者を含めると日本人全人口の3%にも達する極めて頻度の高い疾患であり、日常診療においても頻回に遭遇する。橋本病は、約100年前の1911年に、京都帝大福岡医学校(現九州大学医学部)外科学教室の橋本 策氏によって初めて報告されたが、後世、内分泌疾患と自己免疫疾患の両面を併せ持つ疾患として位置付けられるようになった。甲状腺ホルモンの低下に伴い認知症、精神症状を呈することは、“粘液水腫脳症”としてよく知られており、ホルモンの補充によって神経症状が劇的に改善することから、“治療可能な認知症”の一つとして見逃してはいけない病態のひとつである。

しかしながら、橋本病に伴って精神・神経症状を呈する病態の中には、甲状腺機能とは関連しない自己免疫を背景とした“橋本脳症”という治療可能な病態も存在する。

本講演では、橋本病に伴う様々な神経疾患の臨床と病態についてお話したい。